

FREE

ご自由にお持ちください。

No.833
2023 February

2

岐阜県の森林・林業

も り
森林のたより



News of the forest



岐阜県伐木安全技術評価会2022を開催しました



●詳細は3ページをご覧ください



編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

http://www.g-forestry.or.jp (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
2月5日(日) 2月10日(金) 2月18日(土) 2月19日(日)	スプーンクラブ	●一般の人々に木工に親しんでもらう機会を作るため、月に3~4回程度、伐ったばかりの生木を斧やナイフで削る「グリーンウッドワーク」の手法でスプーンを作る「スプーンクラブ」を実施する。	ぎふ木遊館 TEL 058-215-1515
3月11日(土)	恵みの森づくり コンソーシアム presents 森あそび・森まなび ~森から感じる春の訪れ~	恵みの森づくりコンソーシアム会員による、ワークショップや展示・販売を行います。大人も子供も大歓迎です。 ●時間：10:00~16:00(予定) ●内容：「森の恵み」に関わる様々な体験プログラム、展示、販売 ●参加料：無料(体験プログラム等一部有料)、事前登録不要	マーサ21 北館1F マーサスクエア 恵みの森づくりコンソーシアム事務局 (森林活用推進課) TEL 058-272-8255



目次 Contents

イベントカレンダー(一般向け) 2
 岐阜県伐木安全技術評価会2022を開催しました 3
 林業・木材製造業の労働災害撲滅を目指して 4
 森林環境譲与税のお悩み相談は、 5
 地域森林管理支援センターへ 第3弾 6
 令和4年度岐阜県地域森林監理士の活動状況について 6
 国会議事堂への県木「イチイ」植栽(前編) 7
 山林協会通信11 7
 山の歳時記(210) 木炭 I 8
 山のおしゃまむし(379) 9
 ー東海環状自動車道「ススカカンアオイ」 9
 ぎふ木遊館通信 10
 morinos 森の出番(morino de van)紹介!! 11
 木の香をぎふの施設(119) meet tree NAKATSUGAWA 12
 森林と人を活かす知恵(121) 森のベタゴ 13
 ー森を舞台に未来をつくる、新たな職種の提案 13
 シリーズ...『森林・環境税』で、緑豊かな清流の国ぎぶづくり(10) 14
 研究コーナー コウヨウザンの利用に向けて 15
 普及コーナー 林業労働災害レスキュー訓練について 16
 スマート林業通信(32) 17
 国有林の現場から(76) 標高千五百mの草原とブナの保護林 18
 林地開発許可制度が変わります!! 19
 林業者向けお知らせ 19
 市況 20



表紙●詳細は3ページをご覧ください。

岐阜県伐木安全技術評価会2022 を開催しました



去る11月19日(土)、美濃市曾代地内の運動公園「台山ヒロック」において「岐阜県伐木安全技術評価会2022」を開催しました。

この評価会は、日本伐木チャンピオンシップ(以下「JLC」)の公式ルールに準じた、「①ソーチェン着脱競技」「②丸太合せ輪切り競技」「③伐倒競技」「④枝払い競技」の4種目を行い、その総合得点で順位を競います。令和2年度、令和3年度に引き続き今回で3回目の開催となりました。

県内の森林組合、林業会社、森林文化アカデミーの学生から参加応募のあった総勢18名が、ビギナークラス(経験年数3年以下)とプロフェッショナルクラス(同概ね10年以上)。以下「プロクラス」の2部門に分かれ競技を行いました。

また、今回は、昨年5月に開催されたJLC in青森大会優勝者の今井陽樹さん、同大会出場者の西嶋強さんに招待選手としてお越しいただきました。お二人は、順位付けには加わりませんが、全種目に競技者として参加いただきました。安全かつスピーディで正確な技術を披露され、参加者一同が魅了され、大きな歓声が上がっていました。

を開催しました

【①ソーチェン着脱競技】

ソーチェンを外し、バーの上下を入れ替えて取り付け、別のソーチェンをスピーディかつ正確に装着する技術を競う競技で、今回の評価会からの新種目です。



プロクラス競技者

【②丸太合せ輪切り競技】

7度傾いた2本の丸太を上下から垂直に切り出し、輪切りの厚さ、切り合わせのズレ、丸太を垂直に切る技術を競う競技です。



ビギナークラス競技者

【③伐倒競技】

高さ1mほどのスギ丸太に受け口と追い口を作り、伐倒方向や「つる」の高さと幅の正確性、チェーンブレイキの扱いなどの安全動作を競う競技です。



プロクラス競技者

【④枝払い競技】

長さ6mの丸太に差し込まれた枝を素早く切り落とすと同時に、枝の切り残しや丸太に傷を付けない正確で丁寧な作業を競う競技です。



ビギナークラス競技者

上位入賞者一覧(敬称略)

- 【ビギナークラス】
- ・優勝…落合海秀
- 「森林文化アカデミー」
- ・二位…佐村隼大「(有)根尾開発」
- ・三位…由留木楓

- 「森林文化アカデミー」
- 【プロフェッショナルクラス】
- ・優勝…鈴木康範「(株)岐阜緑地」
- ・二位…山崎信吾「(株)岐阜緑地」
- ・三位…小元元嗣

「岐阜県森林組合連合会」
県内の森林技術者に加え招待選手も参加した今大会は、過去2回を上回るレベルの高いものとなり、大変盛り上がりしました。さらに、競技の合間に選手同士が知識や技術の意見交換をするなど、有意義な大会となりました。
今後とも評価会を継続して開催し、県内の技術者の技術力と安全意識の向上を図り、林業労働災害の減少に繋がっていきます。



受賞者のみなさん



◀こちらから評価会のダイジェスト版の動画がご覧いただけます

また、競技スタッフとして、(一社)岐阜県森林施業協会青年部会員の皆さんや、森林文化アカデミー学生の皆さんの協力をいただき、さらに鳥取県からもJLC審判資格を有する2名の方々に派遣いただくことで、厳正な審査の下で競技を行いました。競技の結果は次のとおりです。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0508-272-849-1
森林経営課担い手企画係まで

林業・木材製造業の労働災害撲滅を目指して

去る12月22日(木)、岐阜県図書館多目的ホールにおいて、「岐阜県林業・木材製造業(以下「林業」)労働災害撲滅推進協議会を開催しました。

この協議会は、林業の労働安全対策に取り組み、行政機関、林業関係団体、林業事業者の官民一体となった協議会組織を新たに設立すべく開催し、関係者約80人が出席しました。

林業の労働災害については、発生頻度が他業種に比べて極めて高く、死傷災害年千人率(労働者千人あたり1年間に発生する死傷者数の割合を示すもの)で見ると、令和3年は林業が最も高く全産業平均と比較し約9倍、木材・木製品(木材製造業)が約5倍となっています。また、中でも岐阜県は、令和3年の死傷災害発生件数が、林業は全国で8番目に多い43件、木材製造業は全国で2番目に多い55件となっています。

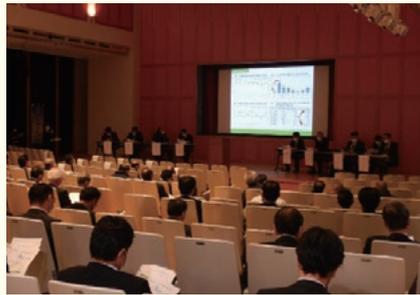
業界全体で労働安全対策を推進すべく、この度次のとおり協議会組織が発足しました。

【協議会】

協議会の始めに主催者である高井県林政部長から、「森林技術者数は減少しており、担い手の確保・定着のためには安全・安心な職場環境の整

備は不可欠である。関係者で一致団結して労働安全対策を進めていきたい」とあいさつを述べました。

その後、事務局(県)から出席者に対し、協議会の設立趣旨の説明、また、協議会規約(案)及び令和4年度活動計画(案)を諮りました。原案のとおり承認いただき正式に協議会組織が発足しました。



【事務局からの説明】

会長に就任した高井県林政部長が改めてあいさつをし、「この協議会設立を皮切りに林業の労働災害撲滅の実現に向け活動に取り組んでいく」と力強い言葉を述べました。

また、協議会の最後には来賓の方々から「協議会が林業の労働安全の核となり、官民一体となった労働災害

防止・撲滅に向けた取組を推進してほしい」等、今後の活動への後押しとなるご祝辞をいただきました。



【来賓あいさつ】
＜広瀬岐阜県議会農林委員長＞

【記念講演】

協議会終了後には、林業労働安全に関する講演(研修)を行いました。

講演1として、一般社団法人日本アレルギー学会専門医である古井秀彦先生から「林業現場における蜂毒アレルギー対策」についてご講演いただきました。



【講演1】

次に講演2として、一般社団法人林業技能教育研究所の飛田所長から「林業労働安全における社内外教育」についてご講演をいただきました。



【講演2】

当協議会は、県・市町村の行政機関、林業関係団体、林業事業者など132者が会員となり、さらに岐阜労働局労働基準部健康安全課、岐阜森林管理署、飛騨森林管理署、東濃森林管理署をアドバイザーとして構成します。今後、災害発生時の情報や再発防止策等、協議会内で情報共有を進めていきます。

また、会員同士で連携・協働して労働安全衛生対策に取り組む、林業労働災害撲滅に向けた活動を一層推進していきます。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 058-2721-8491

森林経営課担い手企画係まで

森林環境譲与税のお悩み相談は、 地域森林管理支援センターへ

第3弾

～地域課題の解決に、森林環境譲与税を使ってみよう!～

地域森林管理支援センター長 荻巣 雅俊

京都府向日市にある「竹の径」^{みち}をご存じでしょうか？ 海外の観光客にも人気が高い嵯峨嵐山の「竹の道」も素晴らしいですが、「竹の径」も捨てたものではありません。1.8kmに及ぶ並木は、散策の価値が大いにあります。岐阜県においても竹は、珍しい植物ではなく、身近な存在として、古来より親しまれてきました。しかし、竹は、放置していくと荒れ放題。聞き取り調査から、その取扱いに、結構悩んでいる自治体も多いことがわかりました。

そもそも竹は、「木」なのか「草」なのか

生態学の専門家は、「どちらとも言えない」と口を揃えられます。確かに、木にしては年輪がないし、草では、大きすぎるし、特徴からするとその通りです。しかし、どこかに分類しなければ行政管理できないこともあり、森林法では、森林の定義に、「木竹」と表記がなされ、竹林は森林整備の対象とすることができます。今回、悩みの多い竹林整備に関する「専門家による勉強会」を昨年12月に開催しました。9市町の参加があり、午前中に現地研修、午後から座学を実施しました。

専門家を講師に招いての勉強会

岐阜県には、統計上、約1000haの竹林があり、そのほとんどが美濃地域に分布しています。中でも可茂地域の河川沿いに多く分布しており、可茂森林組合が自治体からの依頼をうけ、竹林整備と成果物である竹の活用を試行錯誤しながら実施してきました。今回、その現場に赴き、可茂森林組合の井戸参事から、整備手法と竹をチップ化し歩道舗装に活用する事例を学びました。井戸参事からは、「意義のあるやりがいのある仕事」だとコメントを頂きました。



竹チップの活用



かぐや姫の散歩道

次に、可児市の「木曾川左岸遊歩道友の会」の丹羽会長からお話を聞きました。半世紀以上放置され、不法投棄の温床になる心配のあった荒廃した竹林を、地域住民の手で、整備していった経緯について講義を受けました。現在の様子は、写真のとおり「かぐや姫の散歩道」として、国定公園にふさわしい景観となっています。将来は、きっと、歌川広重の描いた太田宿に勝るとも劣らない風景がこの地でみられることでしょう。

午後からは、現地研修で得た知見をより確かなものとするため、岐阜県森林文化アカデミーの柳沢直教授を招いて、竹林整備について座学を実施しました。まず、竹の生態的な特徴、竹林の拡大等について学びました。次に、竹林整備について、竹の伐採方法、侵入を防ぐ方法、竹の利用について学びました。受講者からは、「竹の侵入を防ぐため、1m程度の溝を掘ったが侵入を食い止めることができなかった。どうすればよいか。」等の具体的な質問もあり、活発な議論がかわされました。

勉強会後の受講者アンケートからは、有意義であったという意見の他、「チップ材としての利用方法をさらに模索したい」、「竹チップの肥料の効果に興味をもった。」等、次のステップへの発展を期待する意見もよせられました。折しも、岐阜県では、この4月から「岐阜県木の国・山の国産材利用促進条例」が施行されます。竹の利用も産官学協力のもと加速させていかなければならないと感じました。

最後に

当センターでは、昨年9月に弁護士、10月には、土地家屋調査士による専門家を招いての勉強会を実施し、今回の勉強会で3回目となりました。特に今回のように、地域特有の森林整備の課題を解決するために森林環境譲与税の活用を目指すことは、非常に有効的な税の利用方法であると認識しました。



柳沢教授の座学の様子

森林経営管理制度や
森林環境譲与税に関する
お悩み相談は？

「地域森林管理支援センター」まで

TEL:058-201-5013 FAX:058-275-4398 E-mail:f-shien@g-moriren.or.jp
〒500-8356 岐阜市六条江東2丁目5番6号 岐阜県森林組合連合会内



令和4年度 岐阜県地域森林監理士の活動状況について



岐阜県では、地域が主体となった100年先を見据えた森林づくりに取り組んでいます。

この取り組みを推進するため、県では地域における森林の管理及び経営に必要な専門的知識を有し、市町村に対する林務行政の支援や林業事業体等に対する民有林経営の助言等を行う「岐阜県地域森林監理士」を養成・認定しています。

これまでに27名が認定されており、岐阜県地域森林監理士による令和4年度の主な活動内容は次のとおりです。市町村や林業事業体の皆様からの様々なご要望にお応えすることができますので、是非岐阜県地域森林監理士をご活用ください。

活動先	活動内容
岐阜県	森林経営管理制度に関する市町村林務担当職員研修、森林施業プランナー育成研修の企画・運営、講師など
市町村	森林経営管理制度関係業務（対象森林の抽出、意向調査、森林所有者の探索等）、森林GIS等の活用、森林整備のための協議会等の運営支援、森林環境譲与税の活用提案、市町村森林整備計画関係業務、市町村有林の管理など
民間事業体等	森林経営計画の策定・実行監理、伐採・造林の指導・助言、路網整備の指導など

今後も市町村等の要望に応えられるよう、引き続き岐阜県地域森林監理士を養成・認定していきます。

●詳しい内容を知りたい方は **TEL 058-272-1111** 内線(4347) 森林活用推進課 森林吸収源対策室 森林吸収源対策係まで

国会議事堂への県木「イチイ」植栽(前編)

皆さんは、国会議事堂に都道府県の木が植栽されていることをご存じですか？
国会構内には、衆議院と参議院それぞれに前庭がありますが、昭和45年に議会開設80周年を記念して、47都道府県から寄贈された都道府県の木が植栽されています。

岐阜県の木「イチイ」は衆議院側に2本、参議院側に2本の合計4本が植えられており、参議院側の1本が枯れてしまったことから、植え替えることになりました。実は、このイチイは令和元年度に植え替えたもので、植栽してから3年で再び枯れたということになります。イチイは寒冷地の樹木であり、東京は夏場の高温など厳しい環境となります。このため、土壌など改善を行うことが出来る条件については、出来る限り対策をとったうえで植栽する必要があると考え、まずは土壌調査を行うことにしました。



2本のイチイ（左側が枯死）

土壌調査にあたっては、専門的な知識が必要なため、「岐阜県緑の博士(グリーンドクター)」に協力をお願いしました。グリーンドクターは、植物の生理、生態等の知識を有し、樹木の病気等を総合的に判断・治療できる専門技術者で、これまでに173名の方を県が認定しています。樹木に関する相談窓口である「緑の相談室」の相談員として、現地診断や助

言等で活躍されています。

現地では、枯れたイチイ周辺の土を掘り、①根の状況、②土壌硬度、③透水性、④PHとEC(電気伝導度)を確認しました。その結果、深さ30cmを超えると根茎が侵入することが困難なほど土壌が固く、まっすぐ伸びた主根からの側根はわずかで太く成長していませんでした。さらに掘った穴に水を貯め経過時間とともにどれくらい水位が下がるかを確認する透水性の試験では、15分以降ほとんど減水せず、不透水層があることがわかりました。



グリーンドクターによる土壌調査

これらのことから、大きめの植穴を掘り、土を入れ替えたうえで、根腐れ防止策として透水性や通気性を向上させる土壌改良資材を施工することとしました。植栽工事は2月に計画していますので、詳細は後編でまたお伝えします。
今回、グリーンドクターには専門的なアドバイスで大変お世話になりました。「緑の相談室」では、一般の方からの庭木の相談にも無料で応じていますので、皆さまも是非ご活用ください。

【林政課 政策企画係】



「令和4年度全国治山・林道コンクール」 「令和4年度山地災害防止標語コンクール」

山林協会通信⑪



令和4年度（一社）日本治山治水協会及び日本林道協会主催の「治山・林道コンクール」各部門の岐阜県の受賞者は次のとおりです。おめでとうございます。

なお、昨年度は、民有林治山工事コンクールで金子工業株式会社が農林水産大臣賞を受賞されており、岐阜県においては、2年連続で農水水産大臣賞受賞の栄誉を得ることになりました。（敬称略）

第38回民有林林道工事コンクール

【農林水産大臣賞】

公共農山漁村地域整備交付金事業 森林基幹道 恵北東(2)線 林道開設工事
志津建設株式会社 志津 竜良

第38回民有林治山工事コンクール

【一般社団法人日本治山治水協会長賞】

災害関連緊急治山事業白土洞地区工事
細江土建株式会社 細江 和彦



第23回民有林林道木材使用工事コンクール

【日本林道協会長賞】

地方創生道整備推進交付金事業 二間手～水沢上線(4工区)林道開設工事
郡上農林事務所 林業課



恵北東(2)線 林道開設工事



災害関連緊急治山事業白土洞地区工事



二間手～水沢上線(4工区)林道開設工事

【山林協会 瀬上】



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

「この黒炭はうまく焼きましたね」、森林文化アカデミーの炭窯で学生さんが焼いた炭を見せてもらった時の会話です。

木炭とは簡単に言うと木を蒸し焼きにしたもので、専門的には木材の熱分解残渣とされます。炭化度や熱処理条件によって、黒炭や白炭、更に原木の樹種や用途、産地名によって呼び名が細分化されます。

製炭法も本格的な炭窯を作る築

窯製炭法から、工業的炭化法やドラム缶焼きや伏せ焼きなどの簡易製炭法など様々あります。

日本で最も古い木炭は、洪積世約30万年前の遺跡である愛媛県肱川町の鹿ノ川洞窟とされ、鹿ノ川洞窟からは人骨や石器類と一緒に、鍛冶に用いる鍛冶炭に近い炭や消し炭の2種類が発見されています。

意外にも同時期の中国、北京原人の周口店洞窟からは、焚き火による消し炭しか発見されていません。大規模な発掘事例としては、1986年に中国で発見された紀元前5世紀の「曾侯乙墓」で、約5トンの木炭を床から天井周囲まで厚み1mも積み上げられていたものがあります。

燃料としての木炭は、薪や消し炭と異なり、燃やしても煙や煤を出さず、火力の調整が簡単で火持ちが良く、保存性や運搬性が高く、人類最初の「燃料革命」であった

と言えます。

日本では縄文時代以降に多くの木炭が生産されるようになり、弥生時代に鉄器が利用されるようになると、火つきが良く燃焼温度が高い「ニコ炭」が焼かれるようになりました。その後、東大寺建立など奈良時代に入ると、中国から炭窯による製炭技術が伝えられて「アラ炭」が焼かれるようになり、火つきが良いニコ炭は金属加工用に、そして火持ちが良いアラ炭は調理や暖房用に使用されるようになったのです。

日本の製炭技術は、804年、第16次遣唐使として中国に渡った空海（弘法大師）らによって飛躍的に進歩したと言われ、空海が帰国後移り住んだ多くの場所が木炭の産地であり、特に高野山周辺は熊野木炭の産地となっています。炭窯の排煙口を大師穴とか弘法穴と呼ぶのもその名残です。



▲森林文化アカデミーの炭窯の中を覗く

一般的な黒炭は、樹種や熱分解の方法によって木炭の炭素含有量が74〜93%と幅があるのに対し、白炭は炭化度がほぼ一定で焼きむらが少ないため、炭素含有量は約94%になります。黒炭はコナラ、クヌギ、カシなどを400〜700℃で炭化し、焼いた窯の中で温度が下がるのを待つのに対し、白炭は主にウバメガシを炭化の途中で窯の口を開き、空気を入れて温度約1000℃に高めた炭を窯から引き出し、灰と砂の混合物を被せて消火するため外見上白く見えるのです。



山のおじゃまむし



—東海環状自動車道、スズカカンアオイ—【第379回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

東海環状自動車道。これは愛知県豊田市を起点とし、瀬戸市、岐阜市、大垣市、四日市市までの中京圏を放射線状で結ぶ環状道路である。これが完成すれば交通渋滞の緩和はもちろん、沿線地域の産業や観光がより繁栄するので、地域住民から期待されている道路でもある。工事はほとんど完成し、残っているのは岐阜県のわずかな区間である。現在、養老インターから県境までの工事が行われている。たまたま私はこの区間の工事によって自然環境へ及ぼす影響、特に貴重な野生動植物を保護する対策について検討する委員に任命された。私は昆虫部門。1回目の委員会は工事区間の説明を聞き、車で現地を回った。しかし、ほとんどが田畑や草地で、所々に民家が見られるだけ。この上に道路が出来るのだというから、すごい工事だと思った。ところが新型コロナウイルスの患者が急増し、集会などは控えよとのお達し。このため委員会は中止になった。しかし、環境調査は専門会社によって行われた。そして、令和4年12月1日。数年ぶりに検討委員会が開かれた。まず現地の工事現場へ出かけた。希少種の確認場所や移植場所などへ行き、調査会社から説明を受けるためだ。現地に着くなり驚いた。整備された橋梁工事が写真のようになり進んでいたからである。そこで責任者から希少種の確認場所や移植植物などの説明を受けた。



× × × ×

説明を受けたのは①ハリヨの生息地とその生息状況、②鳥類のヒクイナへの影響、③ナガエミクリの移植状況の確認、④カギカズラの移植状況の確認、⑤スズカカンアオイの移植状況、⑥サシバ営巣地への影響であった。しかし、この工事は生息地の環境を直接崩すようなことはなく、どの分野とも問題になることはなかった。昆虫でもギフチョウの食草であるスズカカンアオイはすべて活着していた。今回はどの分野も問題なかったので、各委員ともほっとしたというのが本音であった。これは余談であるが、この日ほど自家用車の有難みを感じたことはなかった。と言うのは自宅から岐阜県国道事務所までは50分ほど。それが公共交通機関で来てくださとのこと。それで自宅を8時に出発。事務所へ着いたのが11時。3時間もかかったのである。帰りも同じで自宅着が21時。すごく疲れた。やはり車は手放せないと思った。しかし、そうはいかないのだ。家族か

ら「歳だから免許を返納してよ」と再三言われているからである。さて、どうしよう。頭の痛い日々が続きそうだ。

× × × ×

このような公共事業とは違い国や県などが指定するレッドデータブックの委員となると悩むことがある。忘れられないのが岐阜市のレッド種を決めた時のこと。当然ギフチョウが候補に挙がった。しかし選ばれなかった。岐阜市にはギフチョウがたくさんいるからである。すると市民から「なぜギフチョウが入っていないのか」と市役所へ抗議の電話。それで次の改定時に検討することにした。ご承知のとおり、ギフチョウは名和昆虫博物館の初代館長である名和靖氏が新種として発表した、岐阜市とゆかりの深いチョウである。これをレッド種にするには事前に現館長の了解が必要ではないかと言う人もいた。しかし、これが大きな壁。今の館長は例え国のレッドでも決めること自体に絶対反対だからである。市では何としても館長を説得してほしいと、私に連絡があった。館長と何回も話をした。館長はレッド種のお陰で虫遊びをする子供が少なくなっている。昆虫採集は悪いことだと言う親が多いからだという。これでは子供が可哀そうだと館長は子供たちを集めて、虫採りをしたり観察する勉強会を開いたりしているという。このほか館長の思いをいろいろ聞いた。そのうちに館長は素晴らしい人だと思うようになった。しかし、了解は得られない。これは信念を曲げないというより、強情で我が強いだけではないかとも思った。ところが、ある日館長から「レッドの件は了解するよ」「まさか。夢では」と思った時、次の一言。「これはあなたの顔を立てただけ。しかし、私の信念はいつまでも変わることはないですから」。

× × × ×

この委員会で鳥類部門のO氏といろいろ話をした。その時、彼の鳥に対する愛着と言うか熱意はすごいと思った。ここ数年は全国各地へ出かけ珍しい鳥を撮っているが、費用を安くするため自分の車に3〜4人乗せて向かっていくというからすごい。しかも、運転はすべてO氏。今までに北海道から九州まで出かけているが、最近は佐渡島へ行ってきたという。今後は離れ小島へ出かけ、そのうちに外国へも行きたいと真剣な顔で言われた。私も全国各地へ採集に出かけているが、話にならない。スケールが違いすぎる。超ものすごい人だと思った。最後にこれも余談だが、私とO氏の共通点はともに酒をこよなく愛するというより呑み助。しかし、盃を交わしたことはない。それでコロナの規制が解けたら居酒屋で盃を交わしながら、ゆっくり話したいと思っている。



ぎふ木遊館通信

ぎふ木遊館のギャラリーでは、岐阜県内の市町村の「ぎふ木育」の取組み、木のおもちゃ作家などを紹介するギャラリー企画展を開催しています。今回は恵那市の協力により12月1日(木)から12月26日(月)まで「恵那市の木工作家による木工作品展」を開催しました。

出展いただいたのは、恵那市内で木製品や木工芸品などの製造販売等を行っている企業^(※)7社で、古くから林業が盛んな恵那市ならではの木の特性を活かした木製品が多く展示され、恵那市産の木を使った木のおもちゃから、ろくろ製品、建具などの伝統工芸品まで様々な作品が紹介されました。

来館された方はみなさん足を止め、素敵な木製品やすばらしい技術と伝統の技が詰まった作品に驚きを隠せない様子でした。



【(※) 出展者 (50音順)】

- アド・ループ (恵那市大井町)
- 小林ロクロ工芸 (恵那市東野)
- 所建具店 (恵那市東野)
- マサチ口雑貨店 (恵那市岩村町)
- 京屋家具 (恵那市岩村町)
- 嵯峨乃や (恵那市武並町)
- はせ工房 (恵那市笠置町)



木の色鉛筆やコマなどのおもちゃ



お盆やお椀などのろくろ製品



組子建具の技術を活かした製品

今回の企画展に併せ12月3日(土)に恵那市森林環境教育推進協議会(通称:えーな木育クラブ)の皆さんを講師にお迎えし、木育ワークショップ「木の枝を使った笛づくり&マイ箸づくり」を開催し、6組のご家族に参加いただきました。

参加された方からは「木を削るたびに木の良い香りがしてとても癒された。」「どうしたらよい笛の音を鳴らせるか自分で考えながらつくることができたのでとても楽しかった。」「自分だけのオリジナルのマイ箸なので長く大切に使いたい。」などの意見が寄せられ、皆さん満足された様子でした。

講師のみなさんも、木育活動を通して地域の自然環境を理解し、木に愛着を持ってもらえたらうれしいと話されていました。



木の枝を使った笛づくり



マイ箸づくり

【恵那市森林環境教育推進協議会(通称:えーな木育クラブ)】

恵那市の森林環境教育(木育)に関する活動(事業)を行うことにより、市民が地域の自然環境を理解し、愛着を持ってもらうことを目的に令和3年5月に設立。林業従事者や木工作家、NPO代表、森林インストラクター、元保育士、教員、子育て中の保護者等30人余が参加。



やがてみんなの森になる

morinos

森の出番 (morino de van) 紹介!!

morinosでは住友林業株式会社との協働プロジェクト「**morino de van (森の出番)**」を実施しています。森林体験プログラムの教材をラッピングしたバンに載せて、各地の小中学校や保育園などに出向いてプログラムを届けています。

今回は可児市立旭小学校（以下、旭小学校）を訪れました。今回のテーマは「自分たちで考える。自分たちでやってみる」です。旭小学校から歩いて10分ほどの場所にある北姫財産区の協力のもとで手を入れ続けてきた『えがおの森』で5年生71名と一緒に「秘密基地づくり」を体験しました。

一定以上の年齢の方なら体験したことがあるであろう「秘密基地づくり」も今の子どもたちには初めての体験であることが多く、木を伐り、枝を払い、組み立て、飾り付けるまでを自分たちの力で考え、やってみることのできる場所は本当に貴重です。

最初に切って良い木とダメな木があること、安全に作業するために必要な注意点、そして作業に掛かる時間などについて説明した後、みんなの秘密基地を必ずグループ全員参加でつくることを確認して作業開始しました。

事前に3クラスを9つのグループに分けてもらい、グループ毎に設計図を作成するなど秘密基地の構想を練ってもらいました。グループによって秘密基地の設計は大きく異なりますが、子どもたちは各々自分が何をするのか役割分担して秘密基地づくりに取り組みました。



みんなで構想を練ってきました。
思い通りにできるかな!?



秘密基地の材料をつくっていきます



こんな感じの秘密基地にする!

伐採した木を組み合わせ、テントのように秘密基地をつくるグループや林地に生えているコナラやヒサカキの幹を柱として利用して小屋掛けをするグループ、横風は気にせず屋根を葺くことに集中するグループなどづくり方は様々。また、立地環境にこだわりを持ち、日当たりが良く眺望も利く尾根筋で基地づくりを進めるグループも。



屋根の完成度が抜群です



テント型の秘密基地



北姫財産区の皆さんと子どもたち

あっという間の2時間でしたが、「自分たちで考える。自分たちでやってみる」を体験できた子どもたちからは「楽しかった!」「まだやりたい!!」との元気な声をもらいました。

旭小学校の児童・先生の皆さん、北姫財産区のみなさん、ありがとうございました!

morinosは、休館日以外、開館時間の10時から16時までの間、自由に利用いただけます。多くの皆様のお越しをお待ちしております。興味を持ってくださった方は、morinosのホームページ、動画YouTubeをご覧ください。

ホームページ <https://morinos.net>

開所時間 10:00~16:00

YouTube 検索「morinosチャンネル」

定休日 毎週火・水曜日



morinosHP



YouTube
「morinosチャンネル」



施設全景

施設概要

事業年度	令和2年度
事業主体	株式会社meet tree
構造 延床面積	木造 98㎡
施設用途	店舗・カフェ・ネイルサロン
木材使用量 使用樹種	36.29㎡(県産材87.01%) ヒノキ
全体事業費	52,800,000円
助成額	21,450,000円 (県産材需要拡大施設等整備事業)
設計者	株式会社 成瀬・猪熊建築設計事務所
施工業者	丸山木材ホールディングス株式会社(建築主体) 株式会社原電気商会(電気設備) 株式会社井口設備(給排水設備) 株式会社ハンド(空調設備) 有限会社菱小小木曾商店(瓦斯設備)
工期	令和2年8月26日～令和3年2月17日



店舗

施設の経緯

ヒノキの葉や枝から抽出した精油を配合した化粧品を取り扱う店舗であることから、東濃ヒノキをふんだんに使用した建物としました。

弊社の母体企業は木材を基軸とした会社であることから、木材関連部門の力を結集し建築しました。



カフェ



ここに注目!!

CLTを屋根下地及び化粧材としてそのまま現地で使用しています。道路側の壁面はガラス張りであるため、外部からも木構造の様子を見ることができます。

利用者の様子

印象的な木造建築物で、地域産品を活用した商品を提供していることから、複数のメディアに取り上げてもらう機会に恵まれ、多くのお客様に来店いただいています。

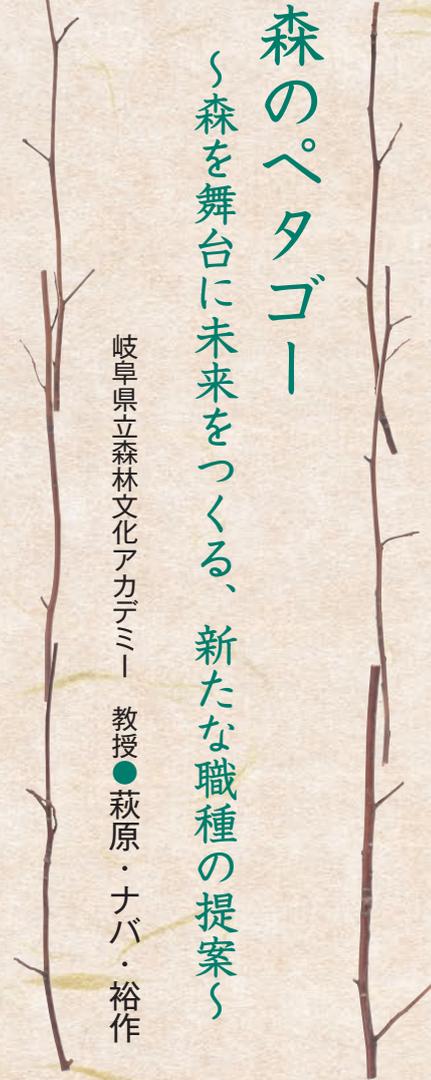
お客様は、地場産品の栗を使用したスイーツを楽しみながら、木の香る空間を満喫しています。

■問い合わせ先
meet tree NAKATSUGAWA
TEL 0573-67-7711

森のペタゴ

森を舞台に未来をつくる、新たな職種の提案

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 萩原・ナバ・裕作



するのには理由があります。人口も資源も少ないため、国民ひとりひとりの能力が高くないと国家運営ができません。そこで国家戦略として個を尊重した教育に移行することで、個々の能力や幸せを最大限に高めていったそうです。それだけではありません。デンマークは、国連の幸福度ランキングで世界2位、個性を尊重し幸せを追求することが、国の維持につながることを証明したのです。

一方、日本の幸福度ランキングは世界54位と残念な結果です。しかし国土の7割を占める「眠れる資源」森林空間に最後の望みがあると私は考えています。森の空間が人間の個性を活かし、成長させるのに理想的な空間であることは明らかで、教育やウェルビーイングの分野からも注目されています。世界に誇る日本の豊かな森を活かす知恵と、ペタゴのような仕組みがあれば、デンマークのような理想的な人づくり、社会づくりができるはずで

そこで提案したいのが、森の可能性を最大限活用することで、子どもたちの個性や、生きる力を伸ばすことのできる「森のペタゴ」という職種です。森のペタゴが、保育・教育現場や学童、プレーパークに常駐し、地域の森を舞台に日々子どもたちの成長を応援すれば、日本人の「生きる力」や幸福度は格段に上がるはずで

今和5年、子ども家庭庁が新設され、森林環境税も本格的に始まります。生きる力のある幸せな国民づくりを、森を舞台に始めていきたいと思っています。

2014年、ドイツ・ロッテンブルク大学との連携協定締結以来、森林文化アカデミーは、シンポジウム、交換留学、共同研究など数々の事業を積極的に展開してきました。そして2020年7月にはドイツの森林教育施設を参考にした日本初の森林総合教育センター「Fonios(フォリオス)」も誕生しました。また、昨年9月に実施した訪独視察プログラムでは、森のようちえんやプレーパーク(冒険遊び場)発祥の地であるデンマークも訪れ、ドイツの教育のルーツに触れました。その際、日本にはない「ペタゴ」と呼ばれる職業に出会ったのです。

今や世界中に広がったプレーパークですが、その起源は、第二次大戦後にコペンハーゲン近郊に実験的に作られた「建築遊び場(廃材遊び場)」にあります。現在も、放課後の子どもたちの自由な遊びを保証する空間として維持され建築遊びも健在でした。「自分の空間を試行錯誤しながら作り上げる遊びは、将来、自分たちの理想的な社会を自分たちの手で築いていく時の力になる」とデンマークの人は考えています。日本ではとかく軽視されがちな子どもの「遊び」ですが、デンマークでは社会づくりの基盤として重視しています。

別のプレーパークでは、子どもたちが建てた無数のウサギ小屋がありました。週3日以上来る子どもたちにはウサギを飼う権利が与えられ、希望する人は仲間を探し、ウサギ小屋を自分たちで建て、放課後の世話当番を調整し合い、責任を持って飼育します。この体験を通して、命の教育、自己肯定感、コミュニケーション、問題解決力、行動力、社会参画意識など、人が幸せに生きていく上で重要な力が養われるのだと言います。

これらプレーパークには、ペタゴと呼ばれる人間教育のプロが配置され、自由な遊びを通して、将来子どもたちが自分たちの社会を築き、幸せに暮らしていくために必要な「生きる力」や「自由と責任の感覚」を獲得していくことを応援していました。

ペタゴはプレーパークだけでなく、小学校でも働いています。先生は教科を教えることに専念し、ペタゴは先生とは違う視点で子どもたちを観察し、個性に合わせた学び方や、自己表現の仕方、他を認め合うコミュニケーションを促しています。いわば、子どもたちの学びを支える土台である人格形成を応援しているのです。ペタゴは時折、日本の「生活支援員」と翻訳されていることもあり



遊び場が社会をつくる

ますが、求められる資質や役割は日本のそれとは大きく異なります。ペタゴは、大学や専門機関での3年半の実践的な教育のもとに養成されています(国家資格)。学びの領域は、自然科学、野外技術、教育学、心理学、社会学、表現、コミュニケーション、リーダーシップ、ファシリテーション、アート&クラフト、カウンセリング、プレイワーク、DIY技術、社会の仕組みと動かし方など、驚くほど多岐に渡り、高い技術が求められます。子どもの成長全体を見守るプロになるわけですから当然です。

デンマークが、これほどまで子ども時代の遊びや人格形成に力を入れ、個を大切に

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取り組みを行っています。こうした取り組みの内容について連載で紹介します。



カーボン・オフセット理解促進事業

県では2050年の「脱炭素社会ぎふ」の実現を目指し、森林経営由来の温室効果ガスの吸収などにより温室効果ガスの排出をオフセットできるJ-クレジットの普及を図っています。

しかし、クレジットの創出・活用についてはいくつかの課題を抱えています。これらの課題を解決するため、セミナーやブース出展などを行っています。

【課題①】

クレジットの購入方法、活用先がわからなかったり、クレジットの申請に関する手続きが煩雑であり、事業者がカーボン・オフセットに取り組むためのハードルとなっています。



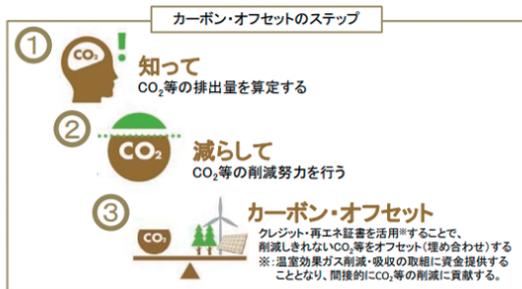
<カーボン・オフセットセミナーの開催>

県内事業者を対象にクレジットの創出・活用についてのセミナーを実施し、事業者の森林経営などによるクレジットへの参加や購入意欲を高めています。

1.はじめに

1.3 カーボン・オフセットとは何か

- カーボン・オフセットは、一般的には、下記のステップの様に、自らの活動によるCO₂等の排出量を把握し、可能な限り削減した上で、実施します。



出典:「カーボン・オフセットガイドライン Ver.2.0」(環境省「カーボン・オフセット フォーラム」HP http://offset.levy.go.jp/document/jcs/guideline_ver.2.0.pdf 最終アクセス2022年6月)

▲岐阜県温室効果ガス排出削減業種別実務セミナー資料「クレジット・再エネ証書について」



【課題②】

森林経営由来の吸収量などによるカーボン・オフセットに対する県民への認知率が低い。

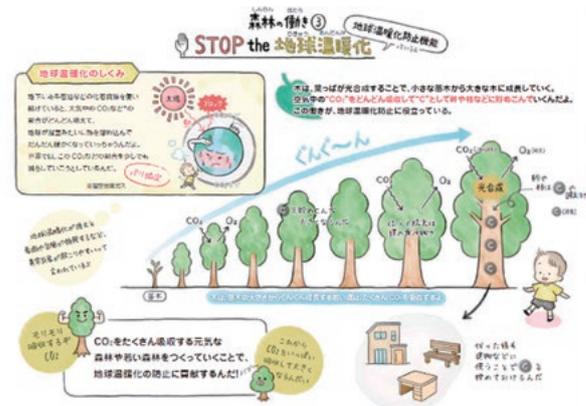


<普及啓発ブースの出展>

県民に分かりやすく伝えるためのコンテンツを盛り込んだ地球温暖化対策の普及啓発ブースを出展し、森林吸収によるクレジットの創出や活用の機運醸成を図りました。



▲普及啓発ブース出展の様子(県内商業施設)



▲普及啓発パネル

コウヨウザンの利用に向けて

森林研究所 ● 土肥 基生

はじめに

コウヨウザンは、成長の早い早生樹と言われることから、スギやヒノキに変わる植栽樹種として期待されていますが、材として利用する際の強度特性や加工性については分からないことが多いのが現状です。今回、岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアムの協力により、郡上市西和良で伐採されたコウヨウザンの試験を行うことができましたので、その結果の一部を紹介します。

丸太のヤング係数

胸高直径62cmの1本を伐採し、約3m毎に造材し、6番玉までの丸太（末口

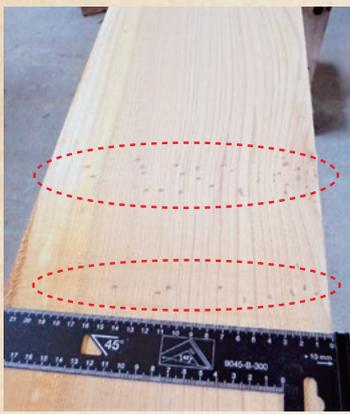


写真1 休眠芽

直径51cm×18cm)を得ることができました。これらの丸太のヤング係数を測定したところ、7.1〜8.1 KN/mmの範囲にあり、ヒノキ丸太(概ね9〜13 KN/mm)と比べて低く、スギ(概ね6〜9 KN/mm)と同程度程度でした。この結果からは比較的たわみ易い(軟らかい)材だと言えますが、強度については樹種毎にヤング係数との関係が異なるため、今後、別途試験を行う必要があります。

製材面の外見上の特徴

6本の丸太のうち元玉から家具用材を想定した柾目板29枚を製材し、材面を観察したところ、スギやヒノキには現れない休眠芽の組織が点状に出現しました



写真2 休眠芽(平行面)

(写真1)。この組織は、年輪の中心の髓から樹皮側に放射状に広がっており、製材面が放射方向と平行になった場合は、線状に現れました(写真2)。また、乾燥後の製材面には不規則にヤニの滲出が見られました(写真3)。玉切りした直後の丸太木口面の形成層付近(樹皮の裏側)からも、白色のヤニが滲出していました(写真4)。

乾燥性について

約50〜60℃の温度で人工乾燥を行い、含水率を10%程度に仕上げた際の含水率経過を図1に示します。コウヨウザンのサンプル材の初期含水率は最大で100%程度でしたが、同時に乾燥させたスギ柾目板と比べて、乾燥速度は大き



写真4 木口からのヤニ



写真3 材面のヤニ

くは変わらないことから、特に乾燥が難しいとは言えない結果でした。また、乾燥に伴う厚さ方向、幅方向の収縮もスギと同程度の結果であり、乾燥後の大きな曲がりや反りの発生も確認されませんでした。

今後に向けて

今回は、あくまで「柾目板」の製材を行った結果であり、木材としての利用を検討する上では、もう少し断面の大きな構造用の正角材などに加工し、乾燥性や強度性能などを詳しく調べていく必要があります。

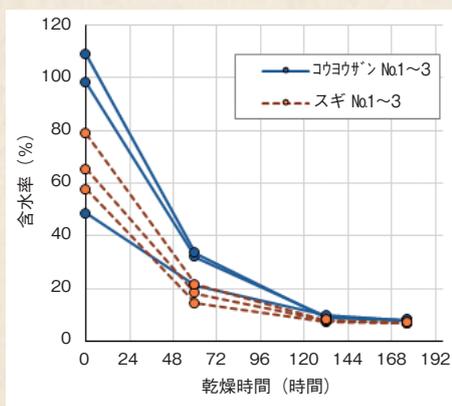


図1 コウヨウザンとスギの乾燥経過

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-333-2585

森林研究所まで



林業労働災害レスキュー訓練について



■岐阜農林事務所 吉田 宗平

戦後植栽された人工林が本格的な収穫期を迎えて国産材の利用が進み、岐阜県においても、今後より一層素材生産を進めていくことが必要になってきます。そのために、伐木の担い手となる森林技術者の確保が重要な課題となっていますが、労働災害の発生度合いを表す「業種別死傷年千人率」は、林業が全産業の中で最も高くなっており、林業労働災害の防止と発生時の備えは林業労働力確保の上でも解決すべき重要な課題となっています。

そこで、岐阜農林事務所の管内においては、令和3年度から林業労働安全対策として、森林内で作業中に被災した森林技術者を安全かつ迅速に救出する知識と技術を学ぶため、消防署の協力のもと「林業労働災害レスキュー訓練」が開催されています。

昨年度は本県市内での開催でしたが、今年度は山県市内で、10月13日に管内の森林組合や林業事業体6社15名に参加いただき、岐阜市消防本部山県消防署職員の指導のもと訓練を実施しました。

訓練1 緊急通報訓練

マネキンが木の下敷きになっている状況を発見し、実際に携帯電話を用いて119番通報をして、被災者の状況を正確に伝え、救急車を手配する訓練を3名の方に実施していただきました。

訓練後、消防署の職員の方からは、「正

確な位置情報を知らせることが必要であり、そのために圏外でも緯度経度が分かるアプリをスマートフォンに入れておいたり、GPS機能の付いたスマートフォンなどを使ったりすることで正確な位置情報の把握に役立つ。」などのアドバイスをいただきました。



緊急通報訓練

訓練2 倒木の下敷きからの救出訓練

次に伐倒木の下敷きになっているマネキンを被災者に見立て、チェーンソーなどの普段使っている道具を使って、どのように救出するかを検討の上、実際に救出を行う訓練を実施しました。マネキンの上の伐倒木を、チェーンソーを使って短く玉切りしてから取り除き、被災者を安全に救出する方法について学びました。

訓練後、消防署の職員の方からは、「ま

出を行うこと。」や、「2名以上で作業ができる場合には、被災者に負担のかからないよう倒木を支えながら作業を行うこと。」などのアドバイスをいただきました。



倒木の下敷きからの救出訓練

訓練3 身動きできない被災者の搬送訓練

次に伐倒木を取り除いた被災者を安全な場所まで移動するための搬送訓練を行いました。

被災者に見立てたマネキンを二人で抱えて移動したり、被災者となった参加者を一人で背負ったり、脇を抱えたりして搬送する訓練を行いました。

参加者の方からは、「力が入っていない人間がこんなに重く感じるとは知らなかった。正しい搬送方法を身につけていざというときに対処できるようにしたい」という意見がありました。



身動きできない被災者の搬送訓練

訓練4 切傷部の止血等の応急措置訓練

その後、安全な場所に移動させた被災者に対し、救急車が到着するまでの間に実施する止血等の応急措置に関する訓練を行いました。

チェンソーなどによる切傷で出血した場合の止血の方法や、骨折した場合の応急措置、また被災者に意識・呼吸がない場合に行う胸骨圧迫の方法などについて学びました。

座学 ジオチャットについて

今回の研修は携帯電話が通じる林内での実施でしたが、携帯電話の圏外でも位置情報付きSOS発信などが可能な、LPWA (Low Power Wide Area) 通信機器のジオチャットについて、岐阜大学の森部准教授に講義をいただきました。



ジオチャット (LPWA 機器)

振り返り(意見交換)

最後に、参加者と消防署の職員の方とで訓練内容について振り返り、今後に生かしていくためのグループディスカッションを行いました。

参加者の方からは「事前に携帯電話がどこまで通じるのかを確認しておくことや、位置情報を正確に把握しておくことの重要性について認識することができた。」「応急措置には清潔なタオル等が役に立つので携帯しておく必要がある。」など今後の業務においても実践していきたいという前向きな意見がありました。また、消防署の方からは「通報にあたっては冷静に対応することが大切。いざというときにパニックにならないように今日の訓練を活かしてほしい。」との講評をいただきました。

今後も引き続きこうした訓練の実施を通じて、林業労働災害の発生防止の啓発や、万が一発生した場合にも被害を最小限にする対策等の普及に取り組んでいきます。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL0581-214-174009

岐阜農林事務所まで

スマート林業通信 32

ドローンの法令等に関する説明会

林業関係者から「ドローンの規制はどんどん変わるので、法令等の説明会を開催してほしい」と要望があったことから、11月25日に下呂総合庁舎でドローンの法令等に関する説明会を開催しました。

講師は林野庁研究指導課の安藤暁子技術革新企画官。安藤企画官は林野庁におけるドローンの担当官で、前任の四国森林管理局時代にはドローンの講師や実証事業などを手掛けていた経験もあると聞き、講師をお願いしました。

参加者は31人。ドローンに関する規制、新制度（機体登録、機体認証、操縦ライセンス）をはじめ、四国森林管理局時代に自ら取り組まれたドローンの活用事例、研修などの説明をいただきました。また、今年度ドイツ林業を視察され、ドイツ林業の進んでいる点、日本との違い等をお話しいただきました。

参加者からの質問も多く、安藤企画官は森林総合監理士としても

引き続き新技術の普及に取り組みたいと話されました。

林業のデジタル化・新技術の普及は、林業関係者が安全になった、便利になった、楽になったと感じてもらうことが大切です。今後みなさまの意見を聞きながら研修等を企画していきます。



▲説明会の様子

●詳しい内容を知りたい方は

TEL0575-1351-25335

森林文化アカデミー

スマート林業推進係まで

標高千五百mの草原と ブナの保護林

今回は岐阜県の最北部飛騨市宮川町の万波国有林を紹介いたします。

万波国有林は越中八尾の風の盆で有名な富山県富山市八尾町との境界に広がる約千ヘクタールの天然林が主体の国有林で標高は七六〇m（一六〇〇mで三千メートル級）の山々が連なる飛騨地域では特に標高が高いと言ふ地域ではありませんが、日本三百名山にも選定されている白木峰（二五九六m）周辺の尾根筋を中心に広がる草原とそこから仰ぎ見る景観は一見の価値があります。



白木峰から望むブナ保護林

また、この国有林内にはブナがまとまって分布している区域もあることから中部森林管理局ではこの区域約三〇〇ヘクタールについて希少個体群保護林に指定して管理しています。

日本でも希少になったブナ天然林が広がるこの保護林、できれば直接足を踏み入れブナやミズナラなどの大木に触れていただきたいところですが、林道もなく徒歩で向かうにもかなり大変な状況なので残念ながら



登山道沿い池塘

お勧めできません。しかしながら前述した白木峰からは眼下に保護林が見渡せ、その広大さを実感することが可能です。

白木峰に至るルートは富山市八尾町側から八合目付近まで林道が伸びており、比較的簡単に登ることが可能でしたが、こちらも数年前の台風被害により麓のキャンプ場からは徒歩でも入れない状況、現在は飛騨市宮川町打保の万波集落跡から延びる国有林林道と登山道を経由して向かうのが安全なルートとなっています。



上空からみた浮島とそれを囲む木道

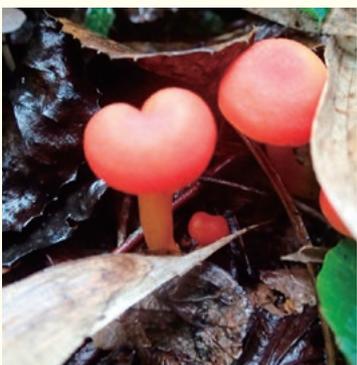
登山口から白木峰までは約三時間半とかなり時間を要しますが、途中の小白木峰にある展望台などから乗鞍岳や御嶽山が望めますし、尾根部にもかかわらず池塘（池沼）があったり、ニッコウキスゲなど季節の花々が咲き誇る場所があったりと見所も多く飽きさせません。白木峰から草

原の中の木道を北へ少し足を伸ばせば池塘に浮かぶ浮島も見られます。残念ながら富山県側にあり国有林ではありませんが…。

機会があれば是非訪れていただきたいと思えます。

交通アクセス等についてはHPで調べていただくか、飛騨森林管理署までお問い合わせください。

なお、中部森林管理局のHPにも万波G.S.（グリーンサポータースタッフ）の活動記録として四季折々の写真が掲載されていますので、こちらもどうぞご覧ください。



こんなかわいい発見もあるかも



林地開発許可制度が変わります!!

◆令和5年4月1日以降、地域森林計画の対象となっている民有林において太陽光発電設備を設置する場合、開発面積*が0.5haを超え1ha以下のものが新たに許可制度の対象となります。

※採光のために、森林として継続的に維持管理されない土地も含まれます。

◆林地開発許可を取得せずに開発を行った場合には、森林法に基づき、監督処分や罰則が科されます。



●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8528 森林保全課森林管理係まで

森林・林業関係イベントカレンダー(2月)

林業者向け

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所 申込(問合せ)先/TEL
2月8日(水)~ 2月10日(金)	伐木・チェーンソー 作業従事者特別教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 講習時間：8日 学科 8:50~17:10 9日 学・実 8:50~12:00 10日 実技 8:30~17:40 ● 申 込：開催日の10日前まで ● 受講料：23,870円(本代含む)(振込み) ● 定 員：30名(定員になり次第締め切ります。) 	8日(学科) 9日(学・実) ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 10日(実技) 県森連岐阜産物共販所(関市倉知字物見山)
2月14日(火)~ 2月17日(金)	フォークリフト 運転技能講習 受講資格 自動車普通運転 免許所持者	<ul style="list-style-type: none"> ● 講習時間 1日目 学科 8:50~17:05 学科試験 17:10~18:10 2~4日目 実技・試験 8:00~17:30 ● 申 込：開催日の20日前まで ● 受講料：32,450円(本代含む)(振込み) ● 定 員：20名(定員になり次第締め切ります。) 	(学科) 伊自良中央公民館(山県市大門850-67) (実技) ぎふ農協 旧伊自良共選場(山県市洞田127-5)



コラム

「ブラボ〜!ブラボ〜!」と日本列島が歓喜に沸いたのも早いもので昨年12月のこと。FIFAワールドカップカタール2022で、日本代表(SAMURAI BLUE)は強豪ドイツとスペインに勝利しグループリーグトップ通過でした。ラウンド16でクロアチアに敗北し惜しくもベスト8の新しい世界を見ることはできず、次回大会にお預けとなりました。しかしながら、十分に世界で通用する実力を我々日本人のみならず世界中の人々に見せつけた感動的な戦いでした(日本代表GoodJob!)。サッカーに興味が無かった人まで、にわかファンとなり、深夜に早朝に眠い目をこすりながら戦況に釘付けとなり盛り上がりました。私もそのにわかの一ひとりだったかもしれません。

コロナ禍で3年間沈み込んだ社会に力と勇気を与えてくれたワールドカップでしたが、これからもささやかな出来事にも興味を持ち「にわかファン」として自分流の楽しみを求めています。

「森林のたより」編集委員 山内 幸彦

イベント情報

3月1日発行

連載

- 山の歳時記(211)
- 山のおじゃまむし(380)

地域の人

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵(122)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(120)

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報

その他

3月号
予定

木材市場

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所
単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配
第1811回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	17,200	—	→
		4 m	16~18cm	15,700	—	→
			20~22cm	16,700	—	→
			24~28cm	16,500	—	→
		30cm以上	15,600	25,000	→	
	6 m	16~18cm	—	—	→	
	ひのき	3 m	16~18cm	23,300	—	→
		4 m	20cm以上	20,700	—	→
			16~22cm	22,600	—	→
			24~28cm	19,900	—	→
30cm以上		19,700	43,000	→		
6 m	16~18cm	—	—	→		
第1398回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~22cm	17,000	—	→
		4 m	24~28cm	16,000	—	→
			30cm以上	15,000	—	→
	ひのき	3 m	16~18cm	23,300	—	→
		4 m	20~22cm	22,000	—	→
			24~28cm	19,900	—	→
		30cm以上	19,700	50,000	→	
	6 m	16~20cm	30,000	—	→	
	ひめこ	4 m	24~28cm	14,000	18,000	↗
		5 m	30cm以上	15,000	28,500	↗
30cm以上			—	—	↗	
くり	4 m	24cm以上	15,000	—	↗	
第1730回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~22cm	17,000	—	→
		4 m	24~28cm	16,500	—	→
			30cm以上元	15,000	20,000	↗
	ひのき	3 m	16~22cm	22,500	37,000	→
			24~28cm	19,800	37,000	→
			30cm以上元	25,000	—	→
		4 m	13cm以下	10,000	—	→
			24~28cm	19,000	36,000	→
	30cm以上元	25,000	39,000	→		
	まつ	4 m	18~22cm	31,500	—	→
4 m		22~28cm梁	—	—	→	
	30cm以上元	11,000	—	→		

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

【商況】

応札は積雪を見据えた在庫確保のため、全体的に活発。スギ4m元木中目、尺上良材は、品薄感も見られ活発な応札にて引き合いは強い。スギは全体的に安定した需要に支えられ強保合。スギラミナ向け3m・4m材は保合であるが引き合いは強い。ヒノキ元木、尺上良材3m・4mは活発な応札にて引き合いは強い。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。(岐阜)

スギ、ヒノキは全体的に横ばいで保合。ヒメコマツは買気旺盛で特に4m30cm以上は引き合いが強い。広葉樹は出材量が多く並材良材ともに応札旺盛で、特にサクラ、マクルミに人気が集まった。高値マクルミ4m×36cm@74,000円、イチイ1.8m×30cm@190,000円(飛騨)

ヒノキ元木良材は応札多数強保合、特に3・4m尺上、40cm以上良材は入札集中。3m柱向け(14cm~24cm)は堅調な引き合いが続き、保合。4m中目は、売りづらさは継続しつつも、小幅高の展開。スギ4m中目尺上元木良材は県内寒冷地域の降雪による品薄感も相まって、継続して入札多数、強保合。4m構造材向けも強保合での展開。同様に3m柱向けも市中からの要請は強い。(東濃)

製品卸売標準価格 (12月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本枚)単価	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	90,000	(2,977)	→
	間柱	3000	105	30	1等	90,000	(851)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	100,000	(4,410)	↘
		3000	120	120	特等	90,000	(3,888)	↘
	柱	6000	120	120	特等	165,000	(14,256)	→
W 集 成 材	柱	3000	105	105	国産5層	121,000	(4,000)	↘
		3000	120	120	国産5層	121,000	(5,200)	↘

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (12月期)

単位:100円(1㎡当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	522	→
	コースト(目荒)	511	↘
米母	ヘム(アラスカ産)	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

これってなあに? ~木材用語~

平角

木造軸組住宅のうち、梁・桁、胴差しといった横架構造部分に使用される断面が長方形に製材されたもの。かつてはアカ松やクロ松といった国産松が主だったが、大径材がなくなったため米松が大半を占める。現在は、構造用集成材や構造用LVLも増えており、また、現し工法の普及から、国産杉KD平角の使用も徐々に増えている。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建材用語辞典